

「景観まちづくり」へ本当のスタートライン -新宿景観シンポジウム、盛大に開催-

M2 パンノイ ナッタポン

新宿プロジェクトは新たな展開を見せた。住民に景観まちづくりを広める目的で作成された「景観まちづくりガイドブック」の完成を期に、住民を対象とした「景観まちづくりシンポジウム」が5月9日(金)に開かれた。会場に新宿区民をはじめ、学生、景観まちづくり関係者など約120名が集まり、会場は熱気に包まれた。

シンポジウム前半は、各地区の「景観まちづくりガイドブック」の成果発表が行われた。地区ごとにガイドブックのまとめ方が多種多様で、特に榎地区の「エノキダケニエノキダケ」「によきによきえのつき」の両キャラクターを用いたスタイル、柏木地区のレシピスタイルが個性的で反響が高かった。

観客からは「全体的に住民からの視点に欠けている」という課題も提示されたが、当日の様子やガイドブックの売行きから、多くの人々は景観まちづくりに関心を持っているようである。

また、シンポジウムの後半では西村先生、窪田先生、中山新宿区長等によるディスカッションが行われた。西村先生からは「蟻の目から都市を読み取って都市計画を作っていくことが、これからのまちづくりに必要」との意見が聞かれた。

ようやく本当のスタートラインに立った「新宿景観まちづくり」。これらの多方面からの意見を踏まえて、今後どのような展開を見せるか楽しみである。

新宿区長も参加した
トークセッション▶



▲ 笹筒地区

▲ 榎地区

▲ 落合第一地区



▲ 柏木地区

▲ 落合第二地区



▲ 四谷地区発表者の北村さん



足助まちづくりへの第一歩 -足助プロジェクト、初の現地調査-

M1 六田 康裕

足助は豊田市の東部の山間にある、古くは信州へ塩などを運ぶ宿場町・在郷町として栄えたまちです。香嵐渓のもみじは有名で、紅葉の時期はライトアップも行われ、観光客でにぎわいます。

このまちは2005年の豊田市への併合に伴い経済的に余裕ができ、またこれからまち作り交付金を利用した都市再生整備計画がスタートするというので、大きく変化しようとしています。

始まったばかりのこのプロジェクトですが、5月15日～17日の日程で窪田先生、M1(4名)、M2(4名)の9人で現地に行ってきました。初視察ということで、今回は市役所・足助支所と地元のまちづくり組織の協力のもとまち歩きを行い、意見交換会を行いました。その後2日にわたり今後の方針を探るためまちなみの調査と資源の発掘を行い、現状の把握に努めました。

今後の活動については現在模索中ですが、デザインガイドラインの提案やワークショップなど、足助のまちの魅力を発掘・創出していけたら、と思います。

ASUKE ALBUM
5.15-17

- ◀ 足助の観光資源・マンリン小路にて
- ▲ たんころりん作り体験に集中
- ▼ 香嵐渓にて一休み

佐原PJ、本格始動

-コンペの塀の第一期工事も完了!-

M1 西川 亮

5月12日、千葉県・佐原市に見学に行ってきました。今回は、まず佐原の町並みを知ることが目的で、街全体を歩き回りました。古い町並みと中心を流れる小野川のゆったりとした流れが続きます。午後からは香取市の方に香取市の抱える問題や近年の観光に関するお話を聞きました。実験店舗に使う(予定の)蔵を数軒見せていただきました。これからは実験店舗の詳細の決定を進めていくこととなります。

また、コンペで実施設計を勝ち取った塀の第一期工事も無事完了し、メンバーに初お披露目となりました。



◀メンバー全員でまちあるき

「学生の内から実施設計に関われて感無量です！」
by 鎌形さん(M2)

塀に設けられたベンチにて記念撮影▶



連載「(仮)私の好きな風景」No.2

M1 竹本 千里

私の好きな都市空間はここです!みなさんどこかわかりでしょうか??



はい、正解!14号館の屋上です。もちろんみなさん一度は登ったことがありますよね?屋上と一言に言っても色々あります。10階の広々とした屋上。ここは多くの人に使われている公共の場ですね。ここから眺める夏場の朝日はたまりません。

次に11階のちょっと豪華な屋上。10階より1階分飛び出していてちょっと優越感を感じることができます。10階のベランダにいる人を更に上から俯瞰。

そして穴場。南側・北側の非常階段。アクセスがややこしいためあまり使われておりませんが、そのおかげで、子供の頃の秘密基地を見つけたときのような気分になります。北側は日が当たらず、夏場涼むのにとっても快適。これに対して南側は日がさんさんと照りつけるため、秋～春にかけてのひなたぼっこにお勧めです。

一言に14号館の屋上と言っても、立派に都市空間が形成されているわけですね～、なるほど!

UDCYの活動に高い関心

-第1回UDCYシンポジウム開催-

M1 柴山 浩紀



▲野原助教による京浜臨海のプレゼンテーション

去る5月10日(土)、横浜BankART 1929Yokohamaにて、『未来社会の設計』出版を記念したUDCY第1回シンポジウムが開催されました。本郷から6名、柏から4名のメンバーが参加し、会場準備、受付にと獅子奮迅しました。シンポジウムは、北沢猛教授によるイントロダクションの後、羽藤准教授を含めた3名の先生方によるプレゼンテーション、その後北沢教授および阿部守一横浜副市長らを変えたパネルディスカッションがワイン片手に行なわれました。入場者数は200人を超え、立ち見が出るほどの盛況ぶり。息つく暇もなく、あっという間に閉会時刻を迎え、終了予定時刻を若干オーバーしての閉会となりました。今後の活動にますます注目が集まるUDCY、その動向をお見逃し無く。

汗光る、初夏の大運動会

M2 山田 浩



▲西川(M1)と土信田(M1)のマッチアップ

燃やしたいのは、都市への熱い情熱だけじゃない一体脂肪も燃やしたい、お年頃のM2山田が企画したこの都市工「初夏の運動祭」。昨年秋に引き続き、今回も全都市工研究室から約30名が集まり、研究室の壁を超えて組んだチームで、バレーにサッカーにバスケットにドッジボールにと汗を流しました。日頃研究室でデスクワークに追われる中、なんと爽やかですがすがしい思いをしたのは当日だけ。翌日全身を襲う筋肉痛に苦しんだのは、私だけではなかったようです。今回は新しくM1も大勢参加し、我が研究室の西川君が日頃のクールな印象に反してダイナミックなプレーで魅せるなど、新たな一面が垣間見え、よい交流の機会となったと思います。

編集後記

M1編集委員の先陣を切ったの編集でした。そして記事執筆の大部分で今回からM1が関わるようになりました。「マガジンの記事を書いてようやく研究室の仲間入り」と言われる?この関門を通過して、M1も名実ともに研究室の一員です!ところで、未だに(仮)が取れない連載のタイトル、どなたか連載名の名付け親になって下さい!誰かが「都市空間の妄想力にしよう」と言ってたようななかったような…。

text_kikuchibara

都市デザイン研究室 6月前半の予定

- 6月6日 窪田先生准教授就任パーティー
- 6月7日 UDCYシンポジウム
- 6月13日-15日 足助現地調査